

事業名：「認知症コミュニケーション×演劇」展開事業

団体名：一般社団法人豊岡アートアクション

1 事業内容

日時 2023年8月5日～2024年1月29日

場所 じばさん但馬多目的ホール、豊岡アートアクション事務所等

内容 「老いと演劇」公開ワークショップ等の開催及び関係者による作戦会議

【事業経過】

| 月 日 | 実施内容 | 場 所 | 参加人数 |
|---------|-------------------------|--------------------|------|
| 8月 5日 | 事業実施打ち合わせ(理事会) | 事務所 | 8人 |
| 11月 15日 | 「老いと演劇」公開ワークショップ、上映、座談会 | じばさん但馬多目的ホール | 60人 |
| 11月 15日 | 介護経験者のヒヤリング・意見交換 | じばさん但馬多目的ホール | 10人 |
| 11月 16日 | 今後の展開に関する協議・意見交換 | 事務所 | 4人 |
| 1月 27日 | 事業の振り返りと議論(理事会) | 事務所 | 8人 |
| 1月 29日 | 認知症レクチャー・議論 | ちば内科・脳神経内科クリニック院長室 | 6人 |
| 1月 29日 | 今後の展開について協議 | 事務所 | 9人 |

2 事業の効果

(1) 団体（組織）内の効果

ア 認知症の方への対応について、菅原直樹さんの「老いと演劇」ワークショップが「こうした方がいい」という認知的メッセージの発信になっているのに対し、豊岡アートアクションで別途策定作業を進めている「認知症コミュニケーション×演劇」ワークショップ・プログラムでは、コミュニケーションの問題であるということを情緒的・体感的に感じ取れるものにする方がいいのではないかという方向性が見えてきた。

イ 認知症及びコミュニケーションのあり方に関するエッセンスを簡潔にまとめた冊子を作成する、との方向性が確認できた。

ウ 参加者の感想（別紙）から、認知症をコミュニケーションの問題であるという認識に立つことの妥当性を確信できた。

(2) 地域への波及

ア 認知症が「最大のコミュニケーション障害」であること、したがって本人と家族等周囲とのコミュニケーションをどのように改善するかが重要であるとの認識が広がりつつある。

イ ワークショップを通じて、認知症の人の言動を否定せずに受け入れることがコミュニケーションのスタートして極めて重要である、との認識が広がっている。

3 協働の相手方

医療・介護・行政・地域・演劇関係者の関係者間で、上述のワークショップ・プログラムに関する方向性の共有ができた。

4 今後の課題等

(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等

ワークショップ・プログラムの制作後、それを普及するための行政・地域関係者との協同の仕組みの構築

(2) 地域活動を拡大していくための工夫等

ア 実効性のあるプログラムを制作し、関係介護施設等で実演し、効果を実感してもらうこと。

イ 地域への展開を図るため、プログラム作成時から市等行政との連携を取ることで。

ウ 関係者が認知症についての理解を助ける簡潔な冊子の作成と頒布。



5年11月15日「老いと演劇」公開ワークショップ



5年11月15日「老いと演劇」公開ワークショップ



5年11月15日 劇団OiBokkeShi(老いとボケと死)俳優でもある97歳の岡田忠雄さんが、認知症の妻の介護で演技を実践する姿を捉えた映像上映



5年11月15日「認知症コミュニケーション×演劇」座談会